大阪大学経営協議会（令和４年度 第３回）議事要旨

日　時　令和４年１１月１０日（木）１０時００分～１２時２０分

場　所　大阪大学吹田キャンパス本部事務機構棟４０１会議室及びオンラインによる開催

出席者　西尾総長（議長）
　　　　池上、生駒、井上、井野瀬、金倉、来島、黒田、多田、塚本、出口、豊田、蓮輪、村木、金田、田中、三成、河原、尾上、中谷、水島、豊岡、竹村、深瀬、今里、有川　各委員
欠席者　中野　委員

　議事に先立ち、西尾議長より会議開催に必要な定足数を満たしている旨の報告があった。
　続いて、前回（９月６日開催）の議事要旨については、事前に各委員に照会し、内容を確定して本学ホームページに公表済みである旨の報告があった。

議　　事

【報告事項】

１　令和４年度世界トップレベル研究拠点プログラム（ＷＰＩ）の採択について
　尾上委員から、配付資料に基づき、本学が提案したヒューマン・メタバース疾患研究拠点が採択されたこと及び同拠点の概要について報告があった。

２　統合報告書２０２２の発行について
　金田委員から、配付資料に基づき、今年度より統合報告書を発行すること及びその内容について報告があった。
　本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。
○ 内容は素晴らしいので、これが浸透するよう配付先や周知方法等の工夫をお願いしたい。
○ 世界に開かれた大学として、英語版の発行も検討いただきたい。
○ 今回の統合報告書の発行に加え、企業のＩＲ活動のように対話形式でステークホルダーの意見を聞く機会を設けてはどうか。

３　令和６年度概算要求（教育研究組織改革分、施設整備費補助金）について
　金田委員から、配付資料に基づき、令和６年度概算要求（教育研究組織改革分、施設整備費補助金）の学内における要求方針及び進め方について報告があった。
　本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。
○ 教育研究組織改革分の概算要求にあたっては、その組織の全学的な位置付けや大学の全体の方針とどのように合致しているか、といった考えを明確に伝えることが重要であるため、本件を学内に周知徹底し１つでも多くの要求が認められるようにしてもらいたい。

４　前回のご意見に対する取組状況について
　西尾議長から、配付資料に基づき、前回の本協議会で学外委員からいただいた意見や助言に対する本学の取組状況について報告があった。

【審議事項】
5　生きがいを育む社会創造債プロジェクト候補について

中谷委員から、配付資料に基づき、各プロジェクト候補の選定理由について説明があり、審議の結果、これを承認した。

本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。

○ 大阪大学が目指す「生きがいを育む社会の創造」という目標と、これに基づく各取り組みの実施等を判断する基準については、その整合性に留意が必要である。

6　大阪大学の人事・給与関係について

①令和４年人事院勧告（給与勧告）への本学の対応について

②令和４年１２月期の教職員賞与及び役員賞与について

③令和５年度非常勤職員等の給与額の検討について

④事務系管理職等の管理職手当の見直し

⑤看護職員等臨時調整手当の改定

⑥専門看護師・認定看護師・特定看護師手当の新設

⑦臓器移植派遣手当の新設

⑧クロス・アポイントメント手当の明文化について

水島委員から、配付資料に基づき、上記①から⑧について説明があり、審議の結果、これを承認した。

本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。

○ クロス・アポイントメント制度を今後より一層活用するにあたっては、具体的な目標数等を掲げるなど、長期的な方向性を明確にした上で取り組んではどうか。

7　大阪大学第４期中期計画の変更について

三成委員から、配付資料に基づき、学部及び大学院の収容定員数変更に伴い、第４期中期計画の別表「学部、研究科等及び収容定員」を変更することについて説明があり、審議の結果、これを承認した。

【意見交換】
8　世界と伍する研究大学の検討状況について（大学ファンド関連）

西尾議長及び尾上委員から、配付資料に基づき、国際卓越研究大学の認定・認可の考え方や基準等を定める基本方針（案）と、世界と伍する研究大学に向けた本学の検討状況について説明があり、意見交換を行った。

本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。

○ 国際卓越研究大学に向けて、大阪大学ならではの特徴的な取り組みについてより一層の見える化を図るとともに、何が変わるのか、また、変わることで何が実現されるのか、という点を強調してはどうか。

○ 先ほど説明された大阪大学の構想が資料上にも適切に表現されるとより良い。

○ 経済界では今「関西」がフォーカスされていることから、地域性についてもより強調してはどうか。また、これら地域に対してどう貢献するのか、という具体的なイメージがあると良いのではないか。

○ スチューデント・ライフサイクルサポートセンターの活用により、社会に要求される人材の育成がサステイナブルにできるという仕組みをアピールしてはどうか。

○ 世界に向けた研究拠点として大阪大学の特色、特性をどのようにアピールすべきかを考

えると、大阪地域にこだわらず、もっと大きな地域の観点から、世界に何を発信できるのか、その研究拠点は何を果たせるのかという夢をアピールするのも、「生きがいを育む」ことになるのではないか。

○ 「生きがいを育む社会の創造」にあたっては、世界の平和が前提となると思うが、これに対して大学がどのような貢献ができるのか、アプローチ策を提示してはどうか。

○ 附属病院における取り組みもアピールできるとより良いのではないか。

○ これまでの実績、特にダイバーシティ＆インクルージョンの取り組みは大阪大学の強みである。

○ 研究者が研究に専念するためには職員のサポートが欠かせないことから、職員の質の向上にも言及してはどうか。

（以　上）